



2026年5月8日

各 位

会社名 NTT 株式会社  
代表者氏名 代表取締役社長 島田 明  
(コード：9432 東証プライム)

## 中期経営戦略の一部見直し等に関するお知らせ

当社は、本日の取締役会において、2023年5月12日に公表した中期経営戦略について、下記のとおり一部見直しすることを決議しましたので、お知らせします。これに伴い、当社は、本日の取締役会において、当社及び当社子会社の取締役等に対する業績連動型株式報酬制度について一部変更を行うことを決議しましたので、お知らせします。

### 記

#### 1. 中期経営戦略の一部見直し

##### (1) 見直しの内容

2023年5月12日に公表した中期財務目標を以下のとおり見直すとともに、戦略の一部見直しを実施することとしました。

今後は、国内法人ビジネスにおける AI ビジネスを通じた顧客提供価値起点の事業拡大に加え、データセンターを核とした海外事業の成長及び金融を中心としたパーソナル領域の拡大により、成長分野（バリュー分野）の拡大を図るとともに、既存分野（コネクティビティ分野）についても、GPU・ネットワーク・電力等を最適化した AI ネイティブな次世代インフラ「AIOWN」への転換を進め、2030年度に EBITDA 4兆円の達成をめざします。

なお、サステナビリティ関連指標については従前のとおりです。

#### 中期財務目標

目標指標	目標水準 (2030年度)
EBITDA (連結)	4兆円
ROIC (金融事業*除き)	5.5%

※ NTT ドコモ・フィナンシャルグループ連結

## (2) 見直しの理由

当社は、中期経営戦略のもと、成長分野への取り組みを強化し、企業価値向上に向けた変革を推進してきました。成長分野は積極的な投資とその成果実現により順調に利益拡大しているものの、既存分野における顧客基盤の強化やトラフィック増大等競争環境が厳しくなっています。

こうした事業環境の変化を踏まえ、当社は、中長期的な成長と安定した財務基盤の両立を図るため、中期経営戦略を一部見直すこととしました。

### <関連資料等>

- ・別紙1 プレゼンテーション資料

## 2. 当社及び当社子会社の取締役等に対する業績連動型株式報酬制度の一部変更について

中期経営戦略の一部見直しにあわせて、取締役等に対する業績連動型株式報酬制度の内容について、一部改定を行います。詳細については、別紙2をご参照ください。

### <関連資料等>

- ・別紙2 取締役等に対する業績連動型株式報酬制度の内容の一部改定について

## 3. その他（役員の賞与の業績指標の見直し）

中期財務目標の見直しを踏まえ、2026年度の賞与の業績指標について、以下のとおり見直す予定です。

区分	業績指標	評価ウェイト	評価方法
財務指標	EBITDA	25%	対前年改善度
	EPS（1株当たり当期利益）	10%	
	EBITDA	25%	計画達成度
	営業利益	10%	
	ROIC（金融事業除き）	7.5%	
	設備投資	7.5%	

区分	業績指標	評価ウェイト	評価方法
サステナビリティ指標	顧客エンゲージメント	5%	対前年改善度
	温室効果ガス排出量	5%	計画達成度
	女性の新任管理者登用率	2.5%	
	従業員エンゲージメント率	2.5%	

- ※1 ROIC（金融事業除き）は、NTT ドコモ・フィナンシャルグループ連結を除きます。
- ※2 温室効果ガス排出量の対象は、GHG プロトコル：Scope1&2 です。
- ※3 女性の新任管理者登用率の集計範囲は、当社、(株)NTT ドコモ\*、NTT 東日本(株)、NTT 西日本(株)、(株)NTT データグループ\*です。  
\* (株)NTT ドコモには NTT ドコモビジネス(株)の数値が含まれます。また、(株)NTT データグループには(株)NTT データ及び(株)NTT DATA, Inc.の数値が含まれます。
- ※4 従業員エンゲージメント率は、エンゲージメントを測る指標 4 項目を NTT グループ KPI として設定し、その肯定的回答者の割合です。従業員エンゲージメント率の集計範囲は、当社、(株)NTT ドコモ\*、NTT 東日本(株)、NTT 西日本(株)、(株)NTT データグループ、NTT アーバンソリューションズ(株)、NTT アノードエナジー(株)及びこれらが指定する子会社\*\*です。  
\* (株)NTT ドコモには NTT ドコモビジネス(株)の数値が含まれます。  
\*\* 指定する子会社とは別に、従業員エンゲージメント調査は順次拡大しており、2024 年度より海外グループ会社も開始しています。
- ※5 顧客エンゲージメント指標は、NPI (Next Purchase Intention)、NPS® (Net Promoter Score®) を用いて算出します。NPI は継続利用意向を、NPS®\*は他者への推奨度を測る指標です。顧客エンゲージメントの対象は、NTT 東日本(株)、NTT 西日本(株)及び(株)NTT ドコモ\*\*の注力領域である中堅中小法人向けサービス、コンシューマ向けサービス、ならびに(株)NTT データ及び NTT ドコモビジネス(株)の大規模法人向けサービスです。  
\* Net Promoter Score 及び NPS は、ベイン・アンド・カンパニー、フレッド・ライクヘルド、サトメトリック ス・システムズ (現 NICE Systems, Inc.) の登録商標です。  
\*\* (株)NTT ドコモには NTT ドコモビジネス(株)の数値が含まれます。

本資料に記載されている予想数値及び将来の見通しに関する記述は、現在当社の経営陣が入手している情報に基づいて行った判断・評価・事実認識・方針の策定等に基づいてなされもしくは算定されています。また、過去に確定し正確に認識された事実以外に、将来の予想及びその記述を行うために不可欠となる一定の前提（仮定）を用いてなされもしくは算定したものです。将来の予測及び将来の見通しに関する記述に本質的に内在する不確定性・不確実性及び今後の事業運営や内外の経済、証券市場その他の状況変化等による変動可能性に照らし、現実の業績の数値、結果、パフォーマンス及び成果は、本資料に含まれる予想数値及び将来の見通しに関する記述と異なる可能性があります。

以 上

本件に関するお問合せ先 財務部門 IR 室 寺嶋、大島 TEL：03-6838-5481
--



# 中期的な利益成長に向けて (中期財務目標の見直し)

2026年 5月 8日

- **中期的な利益成長に向けて（中期財務目標の見直し）**
- **2030年度EBITDA4兆円達成に向けた取り組み**
- **中期財務目標**
- **株主還元の基本的な考え方**
- **財務方針**

# 中期的な利益成長に向けて（中期財務目標の見直し）



- 成長分野は順調に利益拡大する一方、既存分野の事業環境変化により、連結EBITDAは想定を下回る水準であり、2027年度の目標達成が難しい状況
- バリュー分野の成長加速と、コネクティビティ分野をAIネイティブなインフラへと転換させていくことにより2030年度EBITDA4兆円達成をめざす

## NTT連結EBITDA



# 2030年度EBITDA4兆円達成に向けた取り組み



## <バリュー分野>

AIを軸に利益成長加速

- ① 顧客提供価値の最大化による国内法人ビジネスの拡大
- ② AI・データセンターを柱とした海外事業の成長加速
- ③ 金融事業を中心としたパーソナルビジネスのさらなる拡大

## <コネクティビティ分野>

AIネイティブな  
インフラへの転換

中期

当面

- ④ AIネイティブな次世代インフラへの転換
- ⑤ AIネイティブな次世代インフラの実現に向けて
- ⑥ 通信事業の利益安定化によるキャッシュ創出力の保持

成長の継続に向けた  
戦略的な先行投資

- ⑦ 新規領域の早期ビジネス化

# 2030年度EBITDA4兆円達成に向けた取り組み



## <バリュー分野>

AIを軸に利益成長加速

- ① 顧客提供価値の最大化による国内法人ビジネスの拡大
- ② AI・データセンターを柱とした海外事業の成長加速
- ③ 金融事業を中心としたパーソナルビジネスのさらなる拡大

## <コネクティビティ分野>

AIネイティブな  
インフラへの転換

中期

当面

- ④ AIネイティブな次世代インフラへの転換
- ⑤ AIネイティブな次世代インフラの実現に向けて
- ⑥ 通信事業の利益安定化によるキャッシュ創出力の保持

成長の継続に向けた  
戦略的な先行投資

- ⑦ 新規領域の早期ビジネス化

# ① 顧客提供価値の最大化による国内法人ビジネスの拡大

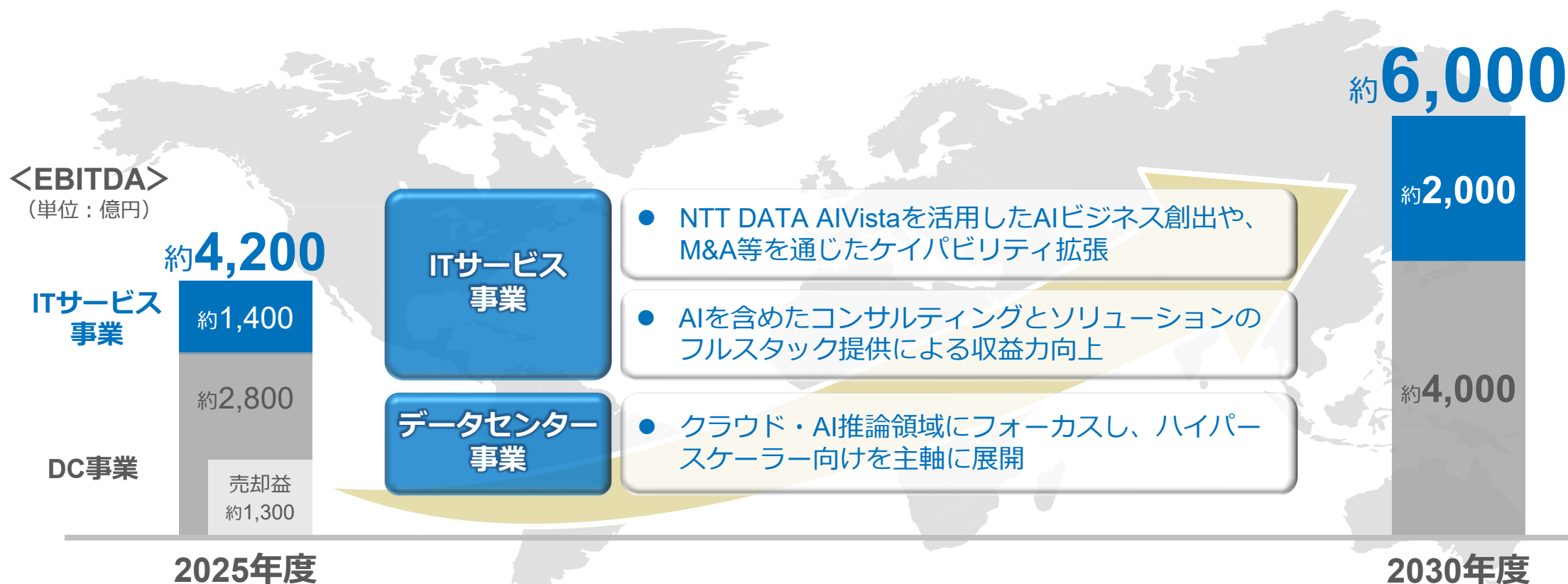
- AIの急速な展開を踏まえ、人的リソース依存のビジネスモデルから顧客提供価値起点のビジネスモデルへ転換
- NTTデータによる高付加価値なインテグレーションの提供を推進することにより、顧客基盤を拡大



## ② AI・データセンターを柱とした海外事業の成長加速

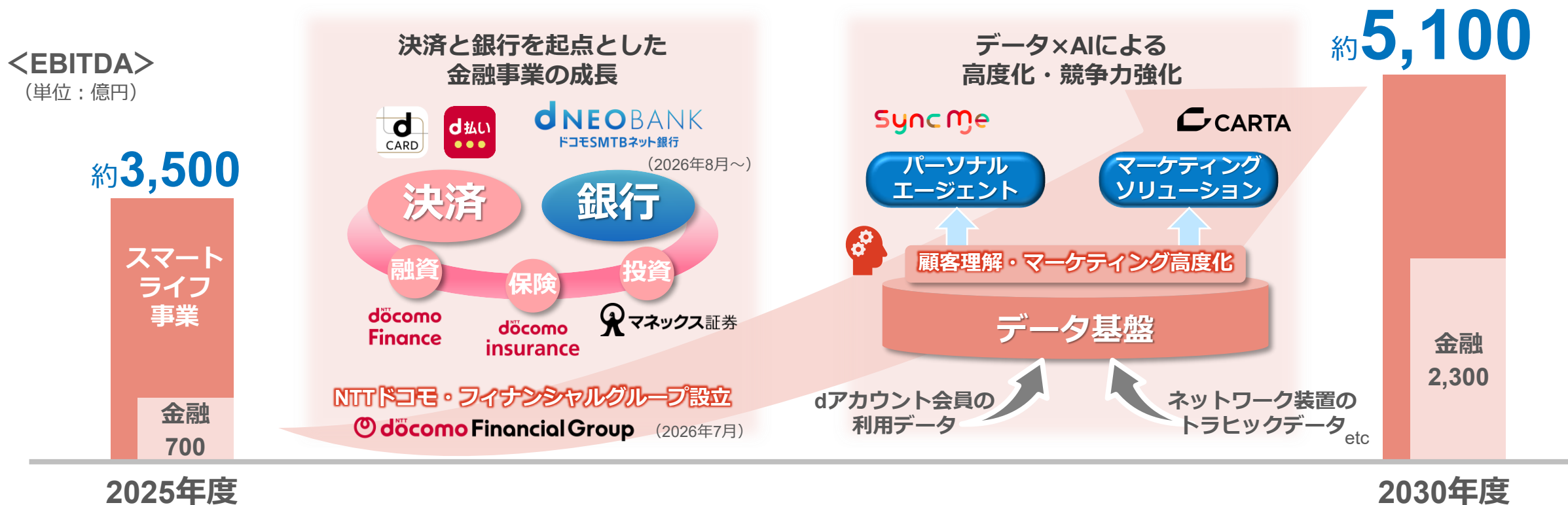


- AIとデータセンターを成長ドライバーとし、フルスタックサービスの提供により海外事業の成長を加速
- ITサービス事業では、AIネイティブなビジネス創出に加え、M&A等を通じたケイパビリティの拡張を推進
- データセンター事業は、旺盛な需要を踏まえ、第三者資本を活用し財務健全性を維持しつつ成長投資を継続



### ③ 金融事業を中心としたパーソナルビジネスのさらなる拡大

- 決済と銀行を起点にした金融顧客基盤の成長と投資・融資・保険の利用促進を通じ、金融事業の成長を実現
- 国内最大級の会員基盤と膨大かつ多様なデータをAIと掛け合わせることでよりマーケティングを高度化



# 2030年度EBITDA4兆円達成に向けた取り組み



## <バリュー分野>

AIを軸に利益成長加速

- ① 顧客提供価値の最大化による国内法人ビジネスの拡大
- ② AI・データセンターを柱とした海外事業の成長加速
- ③ 金融事業を中心としたパーソナルビジネスのさらなる拡大

## <コネクティビティ分野>

AIネイティブな  
インフラへの転換

中期

当面

- ④ AIネイティブな次世代インフラへの転換
- ⑤ AIネイティブな次世代インフラの実現に向けて
- ⑥ 通信事業の利益安定化によるキャッシュ創出力の保持

成長の継続に向けた  
戦略的な先行投資

- ⑦ 新規領域の早期ビジネス化

# ④ AIネイティブな次世代インフラへの転換



- GPU・ネットワーク・電力といったリソースを最適化し、エッジまで含めたオペレーションを担うAIネイティブインフラ「AIOWN」への転換を日本国内で実現し、本格的なビジネス展開をめざす

# AIOWN

AI × IOWN



「AIOWN」は商標出願中です

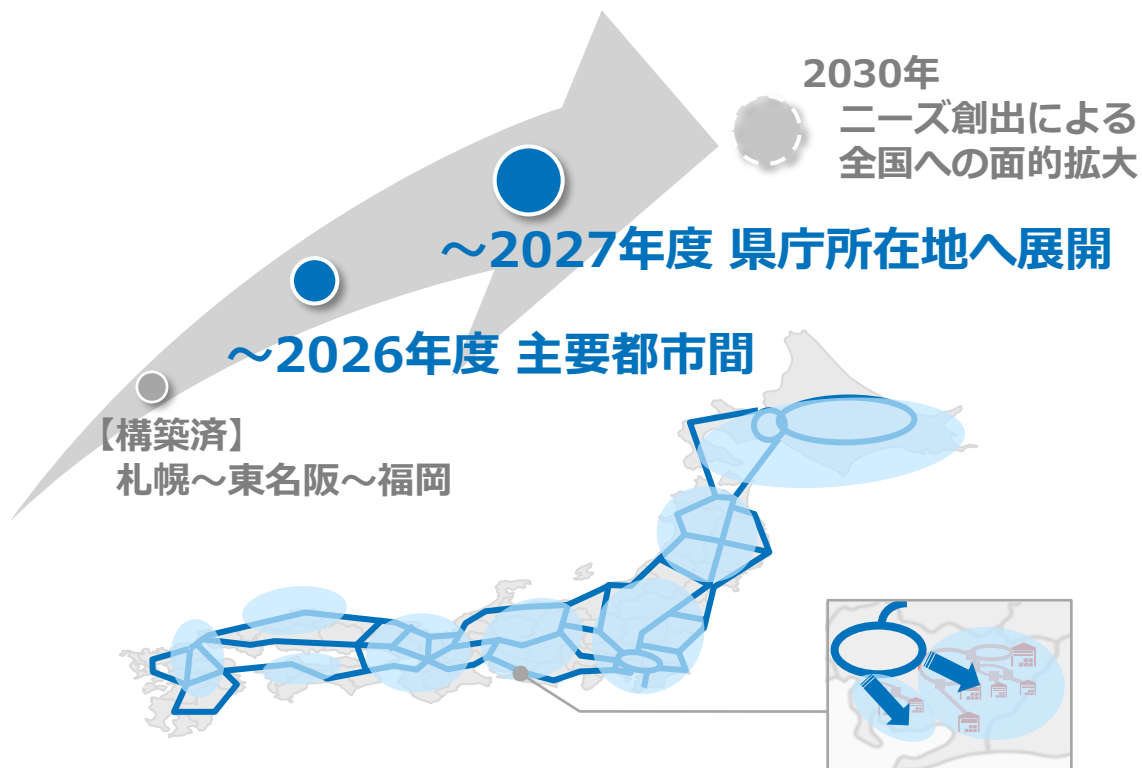


# ⑤ AIネイティブな次世代インフラの実現に向けて



- AIネイティブな次世代インフラ「AIOWN」の実現に向け、IOWN APNの全国への面的拡大をめざすとともに、多様なパートナーとの連携を通じ光電融合デバイスのエコシステムを拡大し、IOWNの社会実装を加速

## IOWN APNの展開



## IOWN 光電融合デバイス等の展開

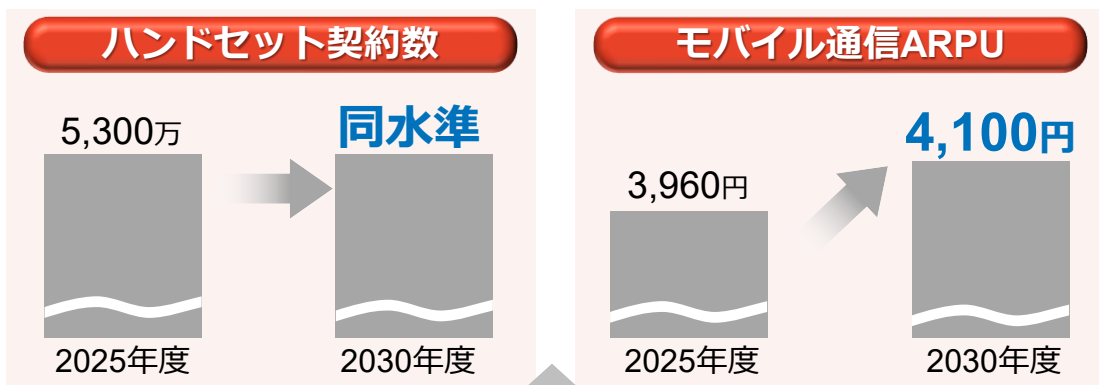


# ⑥ 通信事業の利益安定化によるキャッシュ創出力の保持



- AIを活用したオペレーション変革による生産性向上や、各事業領域における顧客接点の強化等を通じ安定的な利益を確保することによりキャッシュ創出力を保持

## コンシューマ通信事業

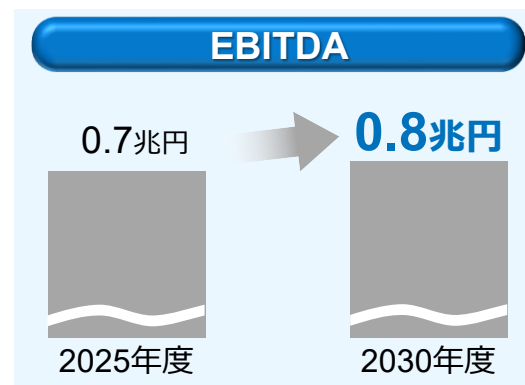


LTVの最大化を実現 **ドコモMAX**

- 顧客接点強化**
  - チャンネル強化
  - AI活用による提案最適化
- プロダクト進化**
  - デジタル×リアルで体験価値を充実
- AIを活用したオペレーション変革・生産性向上**
  - カスタマーオペレーション変革、NWアーキテクチャ変革

※数値は法人名義含む

## 地域通信事業



- オペレーション変革**
- DX・AIを活用したプロセス改善による生産性向上
  - 創出人材のリスキリング・成長領域へのシフト

利益拡大を実現

**FLET'S 光**

- 光ビジネス・法人ビジネス・新規事業の利益拡大**
- 光コラボ・全戸ビジネスの強化等による光基盤拡大
  - 重点顧客へのリソース集中、内製化による利益率向上
  - 地域課題解決を起点とした新規事業領域の収益力強化

# 2030年度EBITDA4兆円達成に向けた取り組み



<p>&lt;バリュー分野&gt; AIを軸に利益成長加速</p>	<ul style="list-style-type: none"><li>① 顧客提供価値の最大化による国内法人ビジネスの拡大</li><li>② AI・データセンターを柱とした海外事業の成長加速</li><li>③ 金融事業を中心としたパーソナルビジネスのさらなる拡大</li></ul>
<p>&lt;コネクティビティ分野&gt;</p> <p>AIネイティブな インフラへの転換</p> <p>中期</p> <p>当面</p>	<ul style="list-style-type: none"><li>④ AIネイティブな次世代インフラへの転換</li></ul> <hr/> <ul style="list-style-type: none"><li>⑤ AIネイティブな次世代インフラの実現に向けて</li><li>⑥ 通信事業の利益安定化によるキャッシュ創出力の保持</li></ul>
<p>成長の継続に向けた 戦略的な先行投資</p>	<ul style="list-style-type: none"><li>⑦ 新規領域の早期ビジネス化</li></ul>

# ⑦ 新規領域の早期ビジネス化

- 2030年度以降の持続的な利益成長を実現するため、モビリティ・宇宙・光量子コンピュータ等の分野に対する戦略的な成長投資を継続

当面

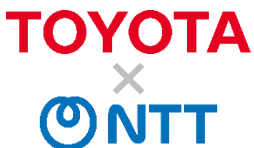
中長期

## モビリティ

- 自動運転車両の導入・運行支援サービス等  
(路線バス・タクシー等)

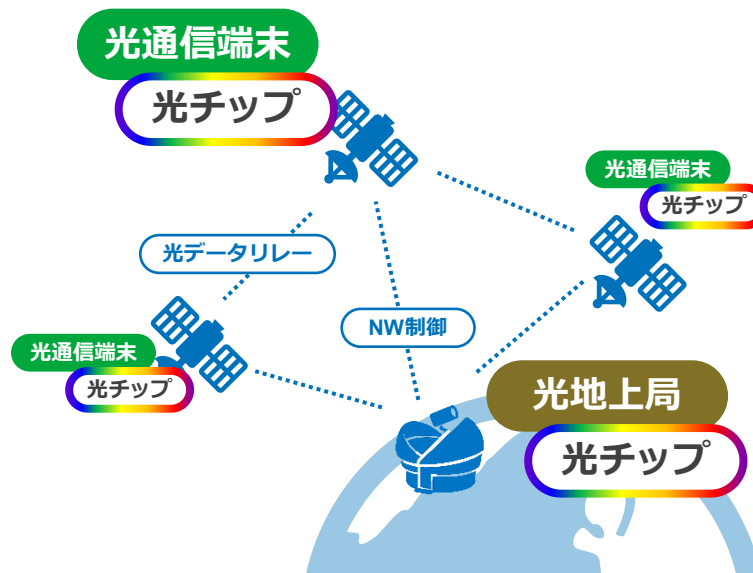


- インフラ協調型モビリティAI・通信基盤



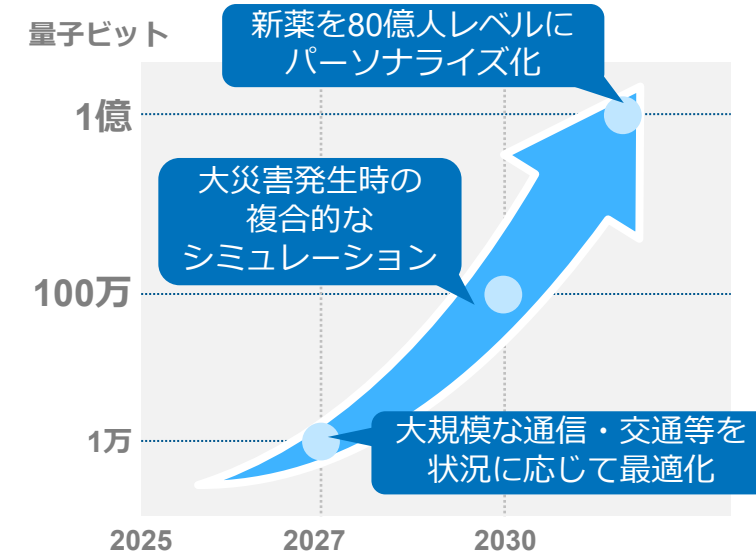
## 宇宙

- IOWNの技術の応用
- 防災領域や経済安全保障領域への活用



## 光量子コンピュータ

- スケーラブルで信頼性の高い光量子コンピュータ開発を継続
- パートナーと連携した早期ビジネス化



戦略的な成長投資を継続

# 中期財務目標



目標指標	目標水準 (2030年度)	〔参考〕 2026年度 業績予想
EBITDA(連結)  ROIC(金融事業※除き)	4兆円  5.5%	3.4兆円  5.0%

※ NTTドコモ・フィナンシャルグループ

## ■サステナビリティ関連指標(目標変更なし)

- 女性新任管理者登用率：毎年30%以上
- 温室効果ガス排出量：2040年度カーボンニュートラル、ネットゼロをめざす
- 従業員エンゲージメント率：改善

# 株主還元の基本的な考え方

- 配当政策、自己株式取得ともに従来の方針を継続

## 配当政策

継続的な増配の実施を基本的な考えとする

## 自己株式の取得

機動的に実施し、資本効率の向上を図る

# 財務方針

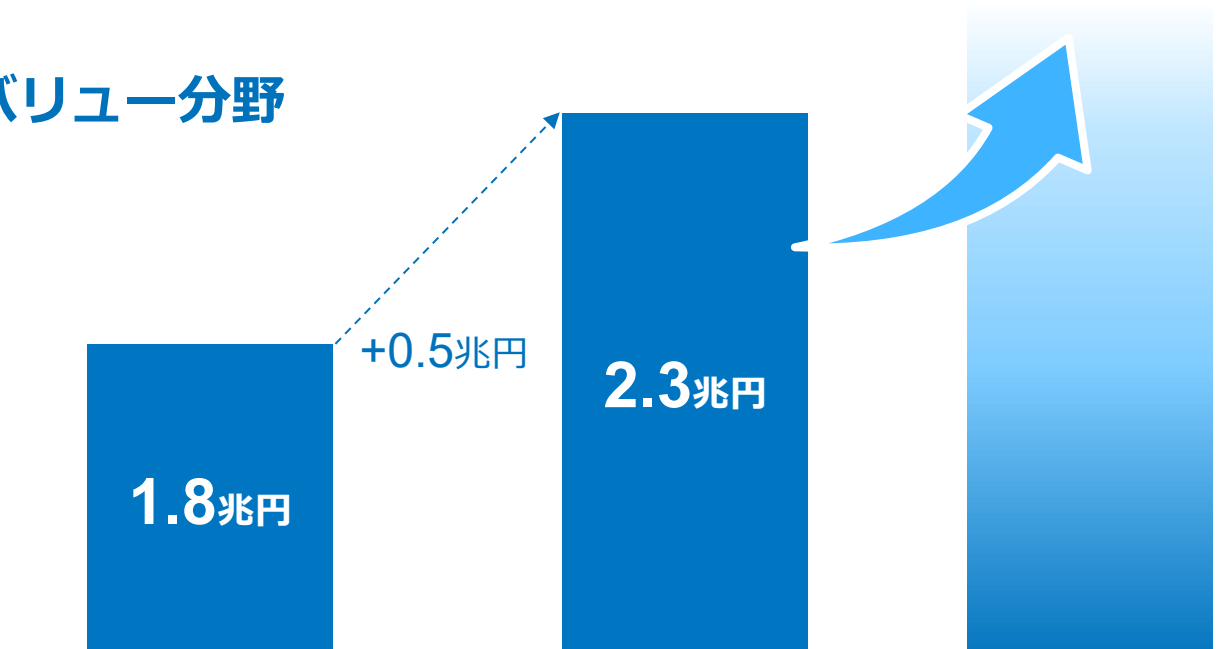
- 一定の財務健全性を確保する方針であり、中期的には有利子負債／EBITDA倍率(金融事業除き)を3.5倍程度まで低下

## 有利子負債／EBITDA倍率(金融事業除き)

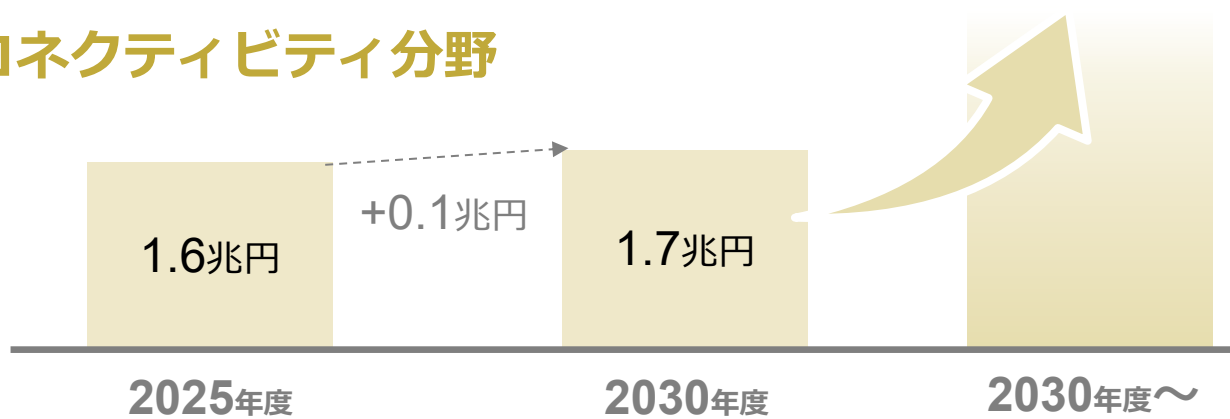


# 【別紙】 事業別EBITDA

## バリュー分野



## コネクティビティ分野



総合ICT      グローバルソリューション      地域通信

事業領域	事業名	2025年度 (億円)	2030年度 (億円)
国内法人事業	スマートライフ事業 (ドコモ)	3,500	5,100
	再掲:金融	700	2,300
国内法人事業	ドコモ	5,100	6,100
	データ	3,900	6,000
海外法人事業 (DATA, Inc.)		4,200	6,000
	再掲:DC	2,800	4,000
	コンシューマ通信事業 (ドコモ)	8,700	8,700
	地域通信事業 (東日本・西日本)	7,400	8,200

A background of a complex network graph with numerous nodes and connecting lines, set against a dark blue gradient. A faint globe is visible in the center background.

# New value creation & Sustainability 2030

powered by **AIOWN**

# **Innovating a Sustainable Future for People and Planet**



## 【別紙2】

取締役等に対する業績連動型株式報酬制度の内容の一部改定について

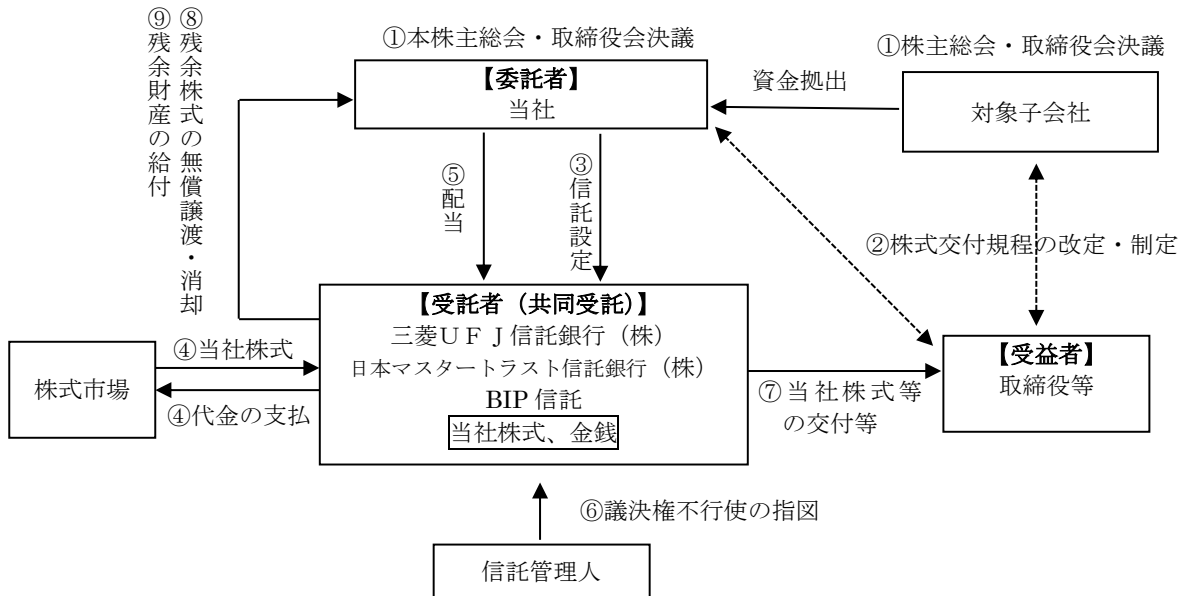
### (1) 要旨

当社は、中期経営戦略の実現に向けて、当社及び当社が定める主要子会社（以下「対象子会社」という。）の取締役及び執行役員（社外取締役及び監査等委員である取締役並びに国内非居住者を除く。以下「取締役等」という。）の報酬と当社グループの企業価値との連動性をより明確にし、中期経営戦略における財務目標達成に向けた意欲をさらに高めること及び取締役等の自社株保有の促進により株主との利益共有をより一層進めることを目的として、取締役等に対する業績連動型株式報酬制度（以下「本株式報酬制度」という。）を導入しています。当社の中期経営戦略の一部見直し（以下「本見直し」という。）に伴い、本見直しと本株式報酬制度の内容を対応させるために、2026年6月18日開催予定の当社第41期定時株主総会において承認されることを条件として、①本株式報酬制度における対象期間の見直し（中期経営戦略を2030年度までの計画に変更したことに伴い、本株式報酬制度についても2030年度までを対象期間とすること。）、②取締役等に対して交付等を行う当社株式等の数の算定方法の見直し（本株式報酬制度改定後の2030年度までの対象期間に限り、2025年3月31日で終了する事業年度から2026年3月31日で終了する事業年度までの2事業年度分の累積ポイントについては、本見直し前の中期経営戦略の最終事業年度としていた2027年度の終了時点において、本見直し前の中期経営戦略に掲げる財務目標達成度等に応じて業績連動係数を乗じることで交付等を行う当社株式数を決定する。また、2027年3月31日で終了する事業年度から2031年3月31日で終了する事業年度までの5事業年度分の累積ポイントについては、本見直し後の最終事業年度である2030年度の終了時点における財務目標達成度等に応じて業績連動係数を乗じることで、交付等を行う当社株式数を算定する。）を行うため、本株式報酬制度の内容を改定いたします。

また、当社の主要子会社である株式会社NTTデータグループ、株式会社NTTデータ、株式会社NTT DATA, Inc.、株式会社NTTドコモ・フィナンシャルグループ（2026年7月1日から事業開始予定）（以下「新規対象会社」といい、当社と新規対象会社を含む主要子会社を併せて、以下「対象会社」という。）を本株式報酬制度の対象会社といたします。

なお、対象子会社（新規対象会社を除く。）における本株式報酬制度の一部改定は、当該会社ごとの株主総会において承認されることを条件とし、また、新規対象会社における本株式報酬制度の導入は、当該会社ごとの株主総会において承認されることを条件とします。

(2) 改定後の本信託の概要



- ① 当社は、取締役等を対象とする本株式報酬制度の改定に関して、本株主総会において承認決議を得ます。対象子会社（新規対象会社を除く。）は、取締役等を対象とする本株式報酬制度の改定に関して、当該会社ごとの株主総会において、承認決議を得ます。また、新規対象会社は、当該会社ごとの株主総会において、本株式報酬制度の導入について承認決議を得ます。
- ② 当社及び対象子会社は、各社の取締役会において、本制度の内容にかかる株式交付規程を改定又は制定します。
- ③ 当社は、取締役等に対する株式報酬の原資となる金銭を拠出し、受益者要件を満たす取締役等を受益者とする本信託を設定しています。
- ④ 本信託は、信託管理人の指図に従い、当社株式を株式市場から取得します。本信託が取締役等に対して当社株式の交付及び当社株式の換価処分金相当額の金銭の給付（以下「交付等」という。）を行うために取得する株式数は、各対象会社の株主総会決議で承認を受けた範囲内とします。
- ⑤ 本信託内の当社株式に対しては、他の当社株式と同様に配当が行われます。
- ⑥ 本信託内の当社株式については、信託期間を通じ、議決権を行使しないものとします。
- ⑦ 信託期間中、取締役等は、各対象会社の株式交付規程に従い、一定のポイント数の付与を受けた上で、受益者要件を満たした場合に、かかるポイント数の一定の割合に相当する当社株式（単元未満株式については切り捨て）の交付を本信託から受け、残りのポイント数に相当する当社株式については、信託契約の定めに従い、本信託内で換価した上で換価処分金相当額の金銭を受領します。
- ⑧ 会社業績目標の未達成等により、信託期間の満了時に生じた残余株式は、本制度又はこれと同種の株式報酬制度として本信託を継続利用する場合には、取締役等への交付等の対象になります。信託期間の満了により本信託を終了する場合には、株主への還元策として、本信託は当社に当該残余株式を無償譲渡し、当社はこれを取締役会決議により消却する予定です。

- ⑨ 信託期間の満了時に生じた本信託内の当社株式に係る配当金等の残余は、本信託を継続利用する場合には株式取得資金として活用されますが、信託期間の満了により本信託を終了する場合には、信託金から株式取得資金を控除した信託費用準備金の範囲内で当社に帰属し、信託費用準備金を超過する部分については、当社及び取締役等と利害関係のない団体への寄附を行う予定です。

※ 信託期間中、本信託内の株式数が信託期間中に取締役等について定められるポイント数に相当する株式数に対し不足する可能性が生じた場合や、信託財産中の金銭が信託報酬・信託費用の支払いに不足する可能性が生じた場合には、当社は本信託に追加で金銭を信託し、本信託による当社株式の追加取得を行うことがあります。

## ① 本制度の概要

本制度は、当社の掲げる中期経営戦略の対象となる事業年度（下記④アに定める。以下同じ。）を対象とし、取締役等の役位及び中期経営戦略の財務目標の達成度等に応じて、役員報酬として当社株式等の交付等を行う制度です。なお、本信託の継続（下記④イに定める。以下同じ。）が行われた場合には、以降の中期経営戦略に対応する事業年度をそれぞれ対象期間とします。

## ② 本制度の改定及び継続にかかる取締役会の決議

本制度の改定及び継続にあたり、本制度にかかる各対象会社の取締役を対象とする役員報酬については、本制度の導入にかかる株主総会で承認を受けた範囲内で、取締役会の決議によって、信託期間の満了時に信託契約の変更及び本信託への追加拠出を行うことを決定します。また、本制度にかかる各対象会社の執行役員を対象とする報酬については、必要な事項を取締役会の決議によって決定します。

## ③ 本制度の対象者（受益者要件）

取締役等は、以下の受益者要件を満たしていることを条件に、所定の受益者確定手続を経た上で、株式交付ポイント数に相当する数の当社株式等について、本信託から交付等を受けることができます。

受益者要件は以下のとおりとなります。

ア 制度開始日以降に取締役等として在任していること（制度開始日以降に新たに取締役等となった者を含む。）

イ 取締役等を退任していること（※）、又は国内非居住者となること

ウ 自己都合（傷病等やむを得ない事由その他当社の認める事由による退任を除く。）や解任等により退任した者又は在任中に一定の非違行為があった者でないこと

エ その他業績連動型株式報酬制度としての趣旨を達成するために必要と認められる要件

※ただし、下記④ウによる信託期間の延長が行われ、延長後の信託期間の満了時においても、取締役等が制度対象者として在任している場合には、その時点で本信託は終了し、当該対象者に対して取締役等の在任中に当社株式等の交付等が行われます。

## ④ 信託期間

### ア 継続する信託期間

現在、2025年3月31日で終了する事業年度から2028年3月31日で終了する事業年度までの4事業年度に対応して設定した信託が存在しますが、中期経営戦略を2030年度までの計画に変更することに伴い、本株式報酬制度の改定後の対象期間は、2025年3月31日で終了する事業年度から2031年3月31日で終了する事業年度までの7事業年度となります。

### イ 本信託の継続

信託期間の満了時において、信託契約の変更及び追加信託を行うことにより本信託を継続することがあります。その場合、その時点において当社が制定している中期経営戦略に対応する年数が新たな対象期間となり、当該新たな対象期間と同一期間について本信託の信託期間を延長し、引き続き延長された信託期間中、取締役等に対するポイントの付与を継続します。なお、新たな対象期間におい

て実施する本信託への追加拠出は、各対象会社の取締役を対象とする役員報酬については、本株主総会に付議予定の本制度にかかる議案が承認可決された場合には、本信託に拠出する信託金の合計上限額の範囲内（以下「本範囲内」という。）で行うものとします。ただし、かかる追加拠出を行う場合において、延長する前の信託期間の末日に信託財産内に残存する当社株式（取締役等に付与されたポイントに相当する当社株式で交付等が未了であるものを除く。）及び金銭（以下「残存株式等」という。）があるときは、各対象会社の取締役を対象とする役員報酬に相当する残存株式等の金額と追加拠出される信託金の合計額は本範囲内とします。この信託期間の延長は、一度だけに限らず、その後も同様に信託期間を再延長することがあります。

ウ 本信託の終了（追加拠出を伴わない信託期間の延長）

本信託を終了する場合においても、信託期間（上記イの本信託の継続が行われた場合には、延長後の信託期間）の満了時に、受益者要件を満たす可能性のある取締役等が在任している場合には、直ちに本信託を終了させずに、一定期間に限り、本信託の信託期間を延長します。ただし、その場合には、取締役等に対する新たなポイントの付与は行いません。

⑤ 取締役等に交付等が行われる当社株式等の数の算定方法

信託期間中の毎年一定の時期に、取締役等に対して、役位に応じて、以下の算定式により計算されるポイント（以下「基準ポイント」という。）が付与され、対象期間の最終事業年度末日直後の一定の時期に、信託期間中に累積した基準ポイント数（以下「累積ポイント数」という。）に業績連動係数を乗じて計算されるポイント数（以下「株式交付ポイント数」という。）に基づき、交付等を行う当社株式数が決定されます。

業績連動係数は、当社の中期経営戦略に掲げる財務目標等で評価するものとし、現行対象期間（本株主報酬制度改定後の2030年度までの対象期間。）については、EBITDAの財務目標達成度等に基づき、0～150%の範囲で決定します。

ただし、本株主報酬制度改定後の2030年度までの対象期間に限り、当該対象期間において算定される株式交付ポイント数は、2025年3月31日で終了する事業年度から2026年3月31日で終了する事業年度までの2事業年度分の累積ポイントについては、本見直し前の中期経営戦略の最終事業年度としていた2027年度の終了時点において、本見直し前の中期経営戦略に掲げる財務目標達成度等に応じて業績連動係数を乗じ、2027年3月31日で終了する事業年度から2031年3月31日で終了する事業年度までの5事業年度分の累積ポイントについては、本見直し後の最終事業年度である2030年度の終了時点における財務目標達成度等に応じて業績連動係数を乗じることで、交付等を行う当社株式数を決定するものとします。

（基準ポイントの算定式）

役位別に定める基準株式報酬額 ÷ 対象期間開始月の前月の東京証券取引所における当社株式の終値の平均値（小数点以下の端数は切り捨て）

本信託を通じて取締役等に交付等が行われる当社株式等の数は、1ポイントあたり当社株式1株とし、1ポイント未満の端数は切り捨てます。ただし、当社株式について信託期間中に株式分割・株式併合等を行った場合には、当社株式の分割比率・併合比率等に応じて、1ポイントあたりの当社株式数を調整します。

なお、信託期間中に取締役等が退任もしくは死亡した場合又は国内非居住者となった場合には、当該時点までに累積したポイント数を株式交付ポイント数として、交付等を行う株式数を決定します。

⑥ 取締役等に対する当社株式等の交付等の方法及び時期

受益者要件を満たす取締役等が退任（死亡時を除く。）する場合、取締役等は、所定の受益権確定手続を行うことにより、株式交付ポイント数の一定割合に相当する数の当社株式（単元未満株式については切り捨て）の交付を本信託から受け、残りの株式交付ポイントに相当する数の当社株式については、本信託内で換価した上で、その換価処分金相当額の金銭の給付を受けるものとします。信託期間中に受

益者要件を満たす取締役等が死亡した場合は、その時点で計算した株式交付ポイント数に応じた数の当社株式について、本信託内で換価した上で、その換価処分金相当額の金銭について、当該取締役等の相続人が本信託から給付を受けるものとします。信託期間中に受益者要件を満たす取締役等が国内非居住者となった場合は、その時点で計算した株式交付ポイント数に応じた数の当社株式について、本信託内で換価した上で、その換価処分金相当額の金銭について、当該取締役等が本信託から給付を受けるものとします。

⑦ 本信託に拠出される当社の取締役にかかる信託金の合計上限額及び付与ポイントの総数の上限

当社の取締役に対する交付等の対象とする当社株式の取得のために本信託に拠出する信託金の合計上限額及び当社の取締役に付与されるポイントの総数の上限は、以下のとおりとします。

・本信託に拠出する信託金の上限（※1）

1 事業年度あたり 1 億 5 千万円とします。中期経営戦略を 2030 年度までの計画に変更したことに伴い、本株式報酬制度の改定後の対象期間は、2025 年 3 月 31 日で終了する事業年度から 2031 年 3 月 31 日で終了する事業年度までの 7 事業年度となりますが、これにより、新たに設定される対象期間となる 2029 年 3 月 31 日で終了する事業年度から 2031 年 3 月 31 日で終了する事業年度までの 3 事業年度については、その合計額は 4 億 5 千万円を上限とします。

なお、上記④イの本信託の継続が行われた場合には、本信託に拠出する信託金の合計上限額は、かかる 1 事業年度あたりの信託金の上限額（1 億 5 千万円）に新たな対象期間の年数を乗じた数に相当する金額となります。

・当社取締役に付与されるポイントの総数の上限（※2）

1 事業年度あたり 1,750,000 ポイント（1,750,000 株相当）とします。そのため、本株式報酬制度の一部改定に伴い、新たに設定される対象期間となる 2029 年 3 月 31 日で終了する事業年度から 2031 年 3 月 31 日で終了する事業年度までの 3 事業年度に対応する上限交付株式数は、対象期間の年数である 3 を乗じた 5,250,000 株（1 ポイントにつき当社株式 1 株の場合。）となります。なお、上記④イの本信託の継続が行われた場合における本信託が取得する当社株式数は、かかる 1 事業年度あたりのポイントの総数の上限（1,750,000 ポイント）に新たな対象期間の年数を乗じた数に相当する株式数が上限となります。

（※1）信託期間内の本信託による株式取得資金及び信託報酬・信託費用の合算金額となります。

（※2）当社取締役に對して付与するポイントの総数の上限は、上記の信託金の合計上限額を踏まえて、過去の株価等を参考に設定しています。

【参考】本制度の対象子会社

- 株式会社 NTT ドコモ
- 株式会社 NTT ドコモビジネス
- 株式会社 NTT ドコモ・フィナンシャルグループ（※）
- NTT 東日本株式会社
- NTT 西日本株式会社
- 株式会社 NTT データグループ（※）
- 株式会社 NTT データ（※）
- 株式会社 NTT DATA, Inc.（※）
- NTT アーバンソリューションズ株式会社

（※）各子会社の株主総会において、本株式報酬制度の導入が承認されることを条件といたします。

⑧ 本信託による当社株式の取得方法

本信託による当社株式の取得は、株式市場からの取得を予定しております。

なお、当社の取締役を対象とする当社株式の取得については、上記⑦の取締役ににかかる株式取得資金及び付与するポイント数に相当する株式数の上限の範囲内で行うものとします。

⑨ クローバック制度等

取締役等に重大な不正・違反行為等が発生した場合又は取締役等が対象会社の許可なく同業他社に就職した場合、当該取締役等に対し、本制度における当社株式等の交付等を受ける権利の喪失又は没収（マルス）、交付した当社株式等相当の金銭の返還請求（クローバック）ができる制度を設けております。

⑩ 本信託内の当社株式に関する議決権行使

本信託内にある当社株式（すなわち上記⑥により取締役等に交付等が行われる前の当社株式）については、経営への中立性を確保するため、信託期間中、議決権を行使しないものとします。

⑪ 本信託内の当社株式の配当金

本信託内の当社株式にかかる配当金は、本信託が受領し、本信託の信託報酬・信託費用に充当されま

す。

⑫ 信託期間満了時

対象期間における財務目標の未達成等により、信託期間の満了時に生じた残余株式は、本制度又はこれと同種の株式報酬制度として本信託を継続利用する場合には、取締役等に対する交付等の対象となります。信託期間の満了により本信託を終了する場合には、株主への還元策として、本信託は当社に当該残余株式を無償譲渡した上で、当社はこれを取締役会決議により消却する予定です。

また、信託期間の満了時に生じた本信託内の当社株式にかかる配当金等の残余は、本信託を継続利用する場合には株式取得資金として活用されますが、信託期間の満了により本信託を終了する場合には、信託金から株式取得資金を控除した信託費用準備金の範囲内で当社に帰属し、信託費用準備金を超過する部分については、当社及び取締役等と利害関係のない団体への寄附を行う予定です。

以 上

## 【役員報酬ポリシー】

### 1. 役員報酬制度の基本方針

当社は、中期経営戦略において、「新たな価値の創造とグローバルサステナブル社会を支える NTT へ」「お客様体験 (CX) の高度化」「従業員体験 (EX) の高度化」を柱に掲げ、地球のサステナビリティを支えることを事業の核とし、そのための新たな価値創造と NTT グループのサステナブルな事業成長・発展を両立させ、企業価値の向上をめざしています。

役員報酬制度は、戦略に基づく中長期的な企業価値の向上と持続的な成長に向けて、役員の職務執行が強く動機付けられ、モチベーションを高めるための重要な仕組みの一つと位置付けています。

### 2. 報酬水準

役員報酬の水準は、経済・社会の情勢、当社グループの経営環境、外部のデータベース等による同規模主要企業の水準の調査、当社および当社グループ会社の役員としての職責等を踏まえ、市場競争力を維持できる適切な水準を検討の上、決定することとしています。

### 3. 報酬構成および業績連動報酬の内容

取締役（社外取締役および監査等委員である取締役を除く。）および執行役員の報酬は、月額報酬、賞与（短期インセンティブ）、ならびに役員持株会を通じた自社株式取得および業績連動型株式報酬（中長期インセンティブ）から構成することとしており、職責に応じて月額報酬、短期インセンティブおよび中長期インセンティブの比率を定めております。具体的には、標準的な業績の場合、代表取締役社長及び代表取締役副社長の報酬構成は、おおよそ月額報酬：短期インセンティブ：中長期インセンティブ＝40：35：25、その他の取締役等については 50：30：20 としております。

なお、日本人以外の外国人役員を招聘する場合等においては、職務内容や市場水準等を勘案し、個別に報酬水準および報酬構成を設定する場合があります。

各報酬制度の内容は以下のとおりです。

#### ■月額報酬

- ・ 月例の固定報酬とし、役位ごとの役割の大きさや責任範囲に基づき、金銭報酬として支給する。

#### ■賞与（短期インセンティブ）

- ・ 業績連動型の金銭報酬として、当事業年度の業績を勘案し毎年6月に支給する。なお、賞与の財務目標については、中期経営戦略等で掲げた目標を指標に設定し、評価する。

#### ■株式取得資金（中長期インセンティブ）

- ・ 役員の自社株保有の促進を通じて、株主の皆さまとの利益共有を一層進める観点から、役員持株会に一定額以上を拠出し、自社株式を購入する資金として支給する。なお、当該資金により購入した自社株式は、役員の在任期間中、その全てを継続保有する。

#### ■業績連動型株式報酬（中長期インセンティブ）

- ・ 役員報酬と当社の企業価値との連動性をより明確にし、財務目標達成に向けた意欲を高めるとともに、役員の自社株保有の促進により株主の皆さまとの利益共有を一層進める観点から、当社の中期経営戦略の対象となる事業年度を対象期間として、財務目標の達成度等に応じて連動する株式報酬を支給する。

- 当社が設定した信託を用いて、役位に応じて定めるポイントを毎年付与・累積し、中期経営戦略の終了時点において、財務目標の達成度に応じた業績連動係数を累積されたポイント数に乗じること、付与する株式数を算定<sup>※</sup>する。なお、株式報酬における財務目標はEBITDA等を用いるものとし、株式の付与は役員の退任時に行う。

※2026年5月8日に発表した「中期経営戦略の一部見直しについて」（本見直し）に伴い、2025年3月31日で終了する事業年度から2026年3月31日で終了する事業年度までの2事業年度分の累積ポイントについては、本見直し前の中期経営戦略にて最終事業年度としていた2027年度の終了時点において、本見直し前の中期経営戦略に掲げる財務目標の達成度等に応じて業績連動係数を乗じ、付与する株式数を算定する。

また、2027年3月31日で終了する事業年度から2031年3月31日で終了する事業年度までの5事業年度の累積ポイントについては、本見直し後の最終事業年度である2030年度の終了時点における財務目標の達成度等に応じて業績連動係数を乗じ、付与する株式数を算定する。

- 株式報酬制度の対象となる役員が、会社と当該役員の委任契約等に関する重大な違反行為を行った場合又は会社の許可なく同業他社に就職した場合、当該役員に対して、本制度における当社株式の交付等を受ける権利の喪失又は没収および既に交付した当社株式相当の金銭の返還請求の措置を講じることができる。

なお、社外取締役（監査等委員である取締役を除く。）については、高い独立性を確保する観点から、業績との連動は行わず、月例の固定報酬のみを支給することとしています。また、監査等委員である取締役については、監査等委員である取締役の協議にて決定しており、社外取締役（監査等委員である取締役を除く。）と同様の観点から、月例の固定報酬のみを支給することとしています。

#### 4. 報酬決定プロセス

当社の取締役の報酬については、客観性・透明性を確保するために、独立社外取締役が過半数を占める報酬委員会を設置し、取締役会からの委任に基づき、同委員会にて個人別の報酬を含めて決定することとします。なお、取締役会は報酬の割合、算定方法及び個人別の報酬額の決定について同委員会に委任することとします。

以上